

神がサタンを直ちに滅ぼさなかった理由

エゼキエル書 28 : 15 (新改訳 2017) あなた (→ルシファーLucifer : 光をもたらす者、光を運ぶ者) の行いは、あなたが (創造主である、わたしー神ーにより) 創造された日から、あなたに不正が見出されるまでは、完全 (同 27 : 3、4) だった/KJB:Thou wast perfect in thy ways from the day that thou wast created, till iniquity was found in thee)。

聖書が描く宇宙の歴史は、単なる善悪の対立ではなく、神とサタンとの間に展開する道徳的・霊的論争の確かな記録です。その争点は力の優劣ではありません。神の律法と統治が、本当に愛と義 (公正) に基づくものなのかに重点が置かれています。

サタンは天において、神の律法は本当に必要なのか、私たち被造物は神に依存せずとも幸福になれるのではないか、という疑念を提起した (→創世記 3 : 4、5 蛇は女に言った。「決して死ぬことはない。それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ」)。聖書には、サタンが神の前に出ている場面が描かれています (ヨブ記 1~2 章、ゼカリヤ書 3 章)。これは神がサタンを是認していたという意味ではなく、宇宙的な裁きの場において「訴える者」として、サタンの存在が許され、そして一定の発言が公の場で許されていたことを示しています。

なぜ、神はサタンを直ちに滅ぼされなかったのか

第一に、神は力ではなく真理によって勝利されることを明らかにするためです。もし反逆の瞬間にサタンが消滅させられていたなら、神が創造された被造物の心には「神は反対者を力尽くで排除するお方ではないか」という疑念が残ったからです。神の統治は、強制ではなく愛と自由意志に基づいています。恐怖による服従ではなく、理解と信頼による従順こそが、神の望まれる人類との関係だからです。

第二に、罪の本質を全宇宙に証明し明らかにするためです。サタンは全きものの典型 (新改訳 2017 = エゼキエル 28 : 12) として創造されました。もし初期段階で神によりサタンが滅ぼされていれば、彼の主張がなぜ誤りであるのかを、宇宙は十分に知ることができなかったからです。そこで神は「証明するための時間」を私たちにお与えになりました。人類の歴史は、神から離れることが何をもたらすかを実証する過程となりました。そしてその頂点がイエスの十字架です。十字架において、神は独り子イエスの死を伴う自己犠牲の愛を示し、サタンの自己中心と暴力性を決定的に露わにされました。こうして、神の愛と義 (公正) は宇宙の前に明確に証明されました。

今はまだ、サタンへの最終的裁きは執行されていません (→執行猶予)。ヨハネの黙示録 20 章 (→ 20 : 7~10 = 千年期の終りに、サタンは解放され、火と硫黄の池に投げ込まれ、完敗する) によれば、サタンは千年期後、最終的に裁かれ (→最終執行審判)、完全に滅ぼされます (→極刑の執行)。しかしそれは、すべての存在が事実を正しく理解し、神の義を認めた千年期後のことです。神は永遠に罪が再発しない宇宙を築こうとして望んでおられます。そのためには、「神は正しい」という確信が、恐れではなく納得と愛に基づいて、全宇宙で共有されなければならないのです。

アダムの場合も同様です。創世記 3 章に記されているように、アダムは決して強制されたのではなく、自らの自由意志によって、結果、罪を選択しました。神は人間の自由を尊重されました。もし神が反逆を即座に力で抑え、封じていたなら、自由意志に基づく、神と人類との愛の関係そのものは成立しませんでした。

神が被造物であるサタンの存在を今も許されているのは単なる放置ではありません。それは、罪の本質を完全に全宇宙に暴露し、神の統治が愛と義 (公正) に基づくことを宇宙に証明し、永遠に安全な世界を確立するためです。神は短期的な解決ではなく、永遠の安定を選ばれました。そこにこそ、人知を超えた神の深い知恵と愛が現れているのです。

サタンの活動は、神の主権の「外」にあるのではなく、また神のご計画を破壊できる位置にあるのではなく、制限付きで行動や存在が許されているのです。それは、永遠に安全な宇宙を築くための神の忍耐であり、決して、神がサタンに悪を命じていることでも、神が悪と共謀していることでもありません。